

入場
無料

第27回 グリムの おはなしフェスト

2024年6月2日(日) 9:30~12:00

会場/グリムの森「グリムの館」

〔出演団体〕

民話語り部の会 ゆうがお

石橋おはなし会

お話ポケットの会

可笑師司のオカシファクトリー

野ばら幼稚園の園児さんたちの発表や

〔本の交換会〕も開催します

主催・問合せ

一般財団法人グリムの里いしばし






0285-52-1180

<https://www.grimm-no.net/>

※出演団体や内容は都合により変更することがあります

「グリムのおはなしフェスト」は、大人も子どもも、絵本や昔話に親しみ、心に優しさをもってもらうためのイベントです。市内の読み聞かせグループの協力で、語りやエプロンシアター、OHP 影絵など、いろいろな手法で物語をご紹介します。

◆◆◆出演団体紹介◆◆◆

<p>10:00 民話語り部の会「ゆうがお」</p> <p>おむすびころりん へっぴり嫁ご 泣いた赤鬼 かしこいわらし</p> <p>「ゆうがお」は、小学校や地域のサロンなどで、地域の伝説や昔ばなしを語っています。</p> <p>ホームページ https://yuugao-minwa.jimdofree.com</p>	<p>可笑師司のオカシファクトリー</p>  <p>読み聞かせ「だいういかのいかたろう」</p>
<p>10:45 石橋おはなし会 </p> <p>図書館や小学校で定期的に読み聞かせを行っています</p> <p>影絵 グリム童話「三まいの鳥の羽」 </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>石橋図書館 第1・3 土曜日 10:30～ おはなし会 第3 月曜日 10:30～ 小さい子(乳幼児)のおはなし会</p> </div> <p> みにきてね </p>	<p>11:20 お話ポケットの会</p> <p>ペープサート「金のがちょう」 エプロンシアター 「はらぺこかいじゅう」ほか</p> <p>みんなできてね!</p> <p>(毎月第2土曜日ごこ2時から 国分寺図書館でお話し会をしています。 お出かけください!)</p> 
<p>第23回グリム童話賞入賞作品</p> <p>「鳩(はと)」をテーマに募集した第23回グリム童話賞一般の部大賞作品『シルクハットの中から空へ』を お話ポケットの会のメンバーが上演します。</p> 	
<p>本の交換会</p> <p>会場: グリムの館2階図書コーナー</p> <p>お子さんが大きくなって読まなくなった本や、面白くて他の誰かにも勧めたい本、片づきたいけれど捨てるにはもったいない本などはありませんか? お手持ちの本を誰かに渡し、新しい本と出合うため「交換会」を行います。</p> <p>参加方法は簡単! ①本を持参する ②紹介カードを書く ③受付にカードと本を渡す 以上です!</p> <p>本の受付は5月1日(水)、2日(木)、3日(金・祝)、4日(土)、5日(日)と当日6月2日(日)に行います。</p> <p>詳しくは交換会チラシや公式サイトでご確認ください。</p>	

「グリム」とは?

この森や建物の名前にもなっている「グリム」とは「グリム童話」「グリム兄弟」の「グリム」です。「グリム兄弟」は1800年代に活躍した政治家であり、学者であり、文学者であった兄弟のことを指しています。兄のヤーコブは1785年1月4日、弟のヴィルヘルムは翌年2月24日にドイツのヘッセン州ハーナウに生まれました。ふたりは、早くに亡くなった父親の代わりに弟妹たちを支えながら、立派な業績を残しました。

グリム兄弟は、ドイツの伝承昔話を後世に残そうと、身近な女性たちから昔話を聞き、それを文章にしました。その時の題名は「Kinder- und Hausmärchen」といい、日本では「子どもと家族のための童話」と訳されています。1812年に初版が発行された時は156話だったこの本は、版を重ね、最後の第7版(1857年)では200話に達しました。これらのお話は、今でも「グリム童話」として世界各地に広まっています。「グリム童話」には、「赤ずきん」「白雪姫」「ラプンツェル」など、皆さんも知っているお話がたくさんあります。グリムの館の図書コーナーには、日本で発売されたグリム童話の絵本のほかに、ドイツ、アメリカ、フランスなど、他の国で発売された書籍も、自由にご覧いただくことができます。

なぜ石橋町(下野市)が「グリム」なの?

石橋町は昭和41(1966)年、グリム兄弟が生まれ活躍したドイツのヘッセン州にある、シュタインブリュッケン村の児童と、絵画や習字などの作品交換を始めました。「シュタイン=石」「ブリュッケン=橋」を意味するこの村は、同じ「石橋」という名前なのです。昭和50(1975)年には姉妹都市の盟約を結び、以来交流を続けてきました。現在、シュタインブリュッケンは周辺の3村と合併し「ディーツヘルツタール」の一部に、石橋町も合併して「下野市」となりましたが、下野市とディーツヘルツタールは姉妹都市として、変わらず交流を続けています。

